

カツオ インド洋

(Skipjack *Katsuwonus pelamis*)



管理・関係機関

インド洋まぐろ類委員会 (IOTC)

最近の動き

最新の資源評価は、2023年10～11月にIOTC熱帯性まぐろ作業部会で、前回資源評価同様に統合モデル (Stock Synthesis 3 : SS3) を用いて行われ、2022年の資源状態が神戸プロットのグリーンゾーンにあることが示された。

2020年の総漁獲量は約56万トンであったが、2021年には10万トン近く急増し約63万トンとなり当時の過去最大の漁獲量となった。2021年の第25回年次会合で「総漁獲量がHCRによる漁獲量上限を超えないようにする仕組みを2022年に構築する提案」がモルディブから提出され、決議21/03として採択されたが、2022年の漁獲量は約67万トン、2023年の漁獲量は約69万トンと過去最大の漁獲量を2年連続で更新した。同年12月のIOTC科学委員会で、資源評価の結果を決議21/03の漁獲管理ルール (Harvest Control Rule : HCR) にあてはめ、2024～2026年の漁獲量上限として63万トンが勧告された (IOTC 2023)。なお2024年の漁獲量は約62万トンであった。2024年のIOTC年次会合にて本種の管理方式 (Management Procedure : MP) が採択さ

れ、2025年の年次会合で2025～2026年の漁獲上限が採択された (決議25/03)。同年のIOTC科学委員会において同MPに基づき、2027～2029年の漁獲量上限は約57万トンと勧告された。この結果を踏まえて、2027年以降の漁獲上限については次回以降の年次会合で修正される予定である。

利用・用途

缶詰、かつお節、寿司ネタ、たたき、乾燥品等に利用される。

漁業の概要

IOTCの漁獲量統計 (1950～2024年) (IOTC 2025a) によると、インド洋のカツオ資源は、竿釣り、流し網、まき網及びその他の漁法で漁獲されている (図1、2、付表1)。その他の漁法には、ひき縄、手釣り、敷網他が含まれる。1983年以前は、開発途上国の小規模漁業の竿釣り (年平均約58%) が主体で、以下、流し網 (約19%)、その他 (13%) 及びまき網 (10%) の順であった。1984年に西インド洋でフランス及びスペイン (現EU加盟国) による大型まき網漁業が開始され、それ以降1984～2024年平均は大型まき網 (約50%) が主となり、以下、途上国の竿釣り (約22%)、流し網 (約18%)、その他 (約10%) の順となっている。

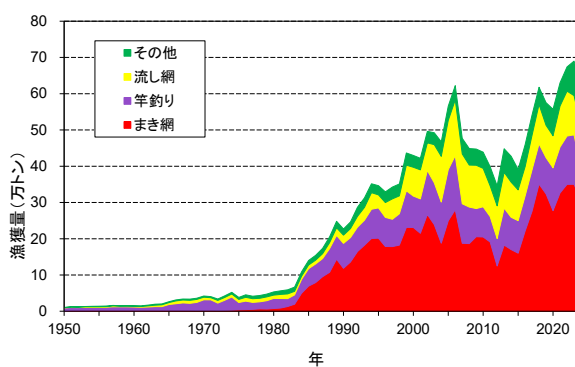


図1. インド洋カツオの漁法別漁獲量 (1950～2024年) IOTCデータベース (IOTC 2025a) に基づく。その他の漁法には、ひき縄、手釣り、敷網他がある。

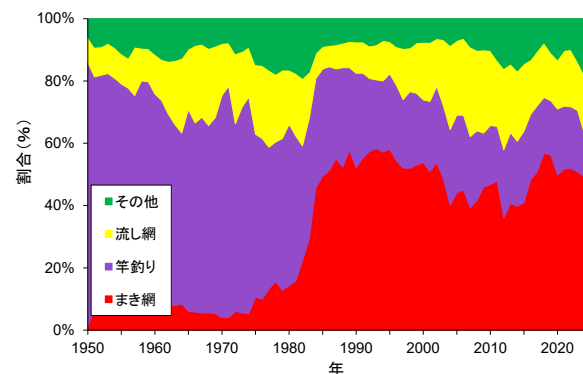


図2. インド洋におけるカツオ漁獲量の漁法組成 (1950～2024年) IOTCデータベース (IOTC 2025a) に基づく。その他の漁法には、ひき縄、手釣り、敷網他がある。

まき網には、素群れ(すむれ)操業と流れもの操業がある。流れもの操業には、流木等自然なもの及び人工的な集魚装置(FAD)に集魚するカツオを狙う2種類の方法がある。図3に、インド洋まき網カツオ漁獲量の素群れ操業と流れもの操業の組成の10年代別変動を示した。1970年代から現在に至るまで流れもの操業による漁獲量が7割以上と多く、1970年代～1980年代は流れものは流木付きによる操業が主で70%程度であったが、1990年代からはFAD操業が急増し、最近では流れもの操業が95%を占め、その大半がFAD操業となっている。

西インド洋(FAO 海域 51)と東インド洋(FAO 海域 57)における最近5年間(2019～2024年)の平均漁獲量の割合は、それぞれおよそ70%、30%で西インド洋での漁獲量が多い(図4、付表2)。主漁場は、南緯0～10度の熱帯域であるが、カツオは南緯40度以北の広い海域に分布し、主漁場以外の海域でも漁獲される(図5)。

インド洋では、モルディブの竿釣り漁業が400年以上前から行われているという記録がある。この他にも、流し網やひき縄等の小規模漁業が途上国で長年行われてきた。IOTC

の漁獲量統計が開始された1950年におけるこれらの漁業のカツオ総漁獲量は約1.1万トンであり、それ以前にも同程度ないしそれ以下の漁獲は長年あったと考えられる。総漁獲量は1950年から年々増加し、1983年には7万トン弱となった。西インド洋でフランス及びスペインによるまき網漁業が本格化した1984年には10万トン台、1988年に20万トン台、1993年に30万トン台、1999年に40万トン台、2005年に50万トン台と、短期間で大幅に増加し、2006年には約62.2万トンに達した。しかし2007年以降、ソマリア沖海賊の活動範囲が拡大し、EUのまき網船がインド洋の他の海域ないし大西洋へ移動し漁獲努力量が減少した。そのため、漁獲量は急減し、2012年には約35万トンとなり、1999年以来最低レベルとなった。その後、2012年に海賊活動は収束し、漁獲量が再び急増して、2023年には約69万トンと過去最大の漁獲量となった(図1、付表1)。なお、直近の2024年の漁獲量は約62万トンである。

最近5年間(2020～2024年)の平均漁獲量は約63万トンで、2024年における漁獲量の多い上位6か国とその漁法は、以下の通り。インドネシア(約14.4万トン;まき網・ラ

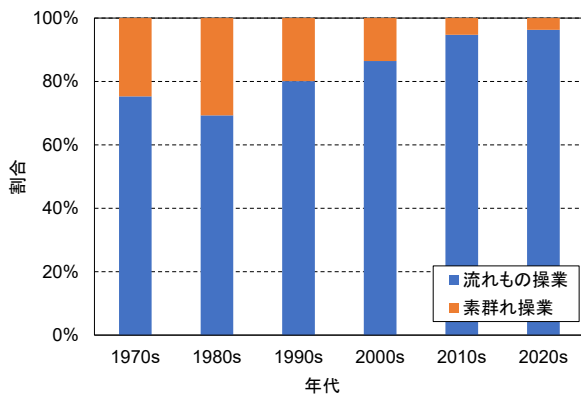


図3. インド洋におけるまき網カツオ漁獲量の操業別組成(10年代別)
2020年代のデータは、IOTC データベース (IOTC 2022) に基づく。流れもの操業は1970～1980年代では自然流木等、その後はFADが主流。

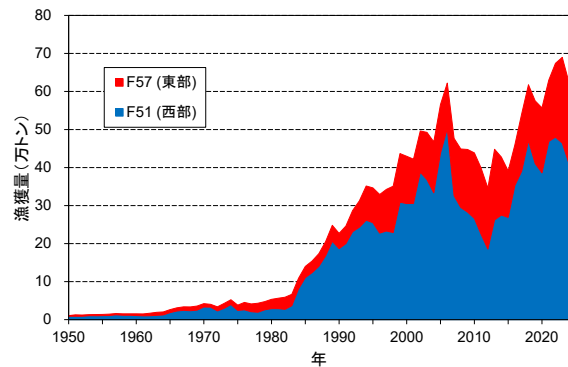


図4. インド洋カツオの海域別漁獲量(1950～2024年) IOTC データベース (IOTC 2025a) に基づく。
F57: 東インド洋 (FAO 漁業統計海域 57)
F51: 西インド洋 (FAO 漁業統計海域 51)

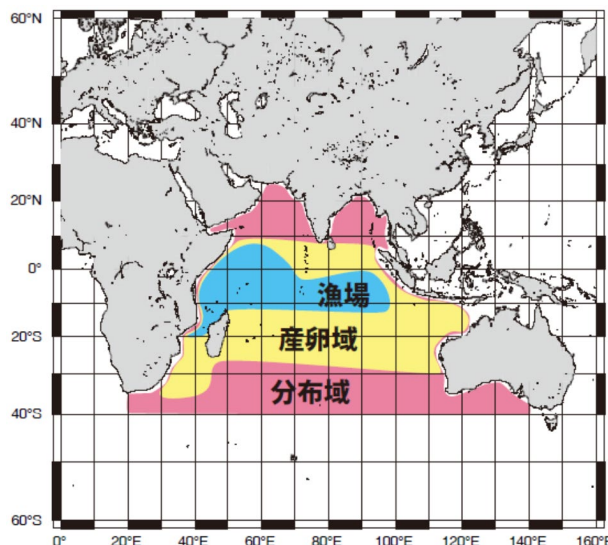


図5. インド洋カツオの分布域、産卵域及び漁場

イン・流し網他) (注: ラインは、手釣り・ひき縄・沿岸はえ縄の3種の漁法の総称)、モルディブ(約8.0万トン; 竿釣り)、セーシェル(約7.8万トン; まき網)、イラン(約7.0万トン; 流し網)、スペイン(約6.6万トン; まき網)、及びスリランカ(約4.9万トン; 流し網・まき網) (図6、付表3)。

インド洋における日本のまき網操業は、1977年に始まり2020年まで44年間継続したが、2021年には操業が初めて無くなり、2024年にかけて操業していない。初期の頃(1977~1988年の12年間)には1~2隻操業し、46~約2,300トン(平均約653トン)漁獲した。その後1989年から1998年までの10年間は操業隻数が3~12隻に増加したため、漁獲量は急増して約3,500トン~約3.1万トン(平均約1.5万トン)の間で変動した。しかし、1999年から2020年にかけて、操業隻数が1~3隻に減少し漁獲量は急減した(約200~4,600トン、平均約2,100トン)。なお、2019年には強い正のインド洋ダイポール現象が発生し、東インド洋で海水温が低下し漁獲量は僅か187トンとなった。ダイポール現象に関しては次節参照。

生物学的特性

【分布・系群構造】

インド洋のカツオ資源は太平洋及び大西洋の資源とは別系群と考えられている(Matsumoto *et al.* 1984, Stéquent and Marsac 1986, Adam 1999)。遺伝子解析及び耳石微量元素解析による調査研究が2017~2019年に行われ、インド洋のカツオは単一系群であることが報告された(Artetxe-Arrate *et al.* 2020, Rodriguez-Ezpeleta *et al.* 2020)。インド洋でカツオは、南緯40度以北の表面水温15℃以上の水域に広く分布するが、紅海・ペルシャ湾ではみられない(図5)。インド洋でのカツオの移動に関してはインド洋標識プロジェクト(Regional Tuna Tagging Project: RTTP-IO, 2005~2010年)で調べられており、放流再捕情報から、平均移動距離は約120 kmにも及ぶことが報告されている(IOTC 2017)。

【食性・捕食者】

カツオの餌は魚類・イカ類・甲殻類で、成魚の捕食者はサメ・カジキ類である。また、未成魚以下の成長段階における捕食者は、他大洋と同様、カツオ自体を含めた高度回遊性魚類のマグロ類・カジキ類、その他大型の肉食性魚類や海産哺乳類、海鳥である。

【産卵・成熟】

産卵は南緯20度以北の表面水温24℃以上の水域で広く行われ、産卵期は海域によってピークが見られるが、条件が揃えば周年産卵するものと考えられる。仔魚は南緯30~36度から北緯11~15度まで出現する(IOTC 2017)。Grande *et al.* (2010) (図7)によると、雄雌ともに尾叉長33 cm前後(0~1歳)で成熟を開始し、成熟割合が50%に達するのは41~43 cm(1~2歳)で、43 cmを超えると100%成熟する。他のマグロ類と異なり、性比に大きな偏りはみられない。

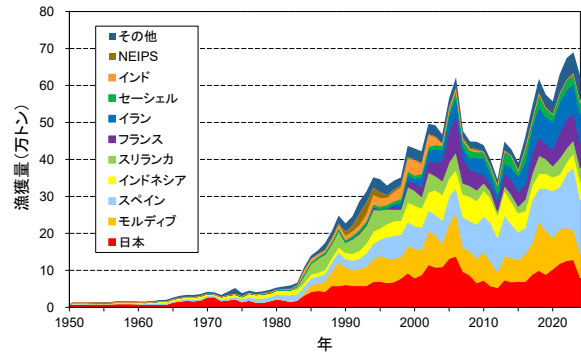


図6. インド洋カツオの国・地域別漁獲量(1950~2024年) IOTCデータベース(IOTC 2025a)に基づく。

(注) NEIPSは、まき網漁獲量のうち国籍不明の分を示す。

【年齢・成長】

インド洋のカツオを対象とした成長研究では確実な年齢形質が確認されておらず、標識魚の放流・再捕データによる推定も生活史の限られた期間の成長を推定するにとどまっている。2023年の資源評価では、前回(2020年)の資源評価同様にこの標識データに基づく成長式が使用された(Eveson *et al.* 2012) (図8)。それによると、満1歳で30 cm台、満2歳で50 cm台、満3歳で60 cm台に成長する。寿命は7歳と考えられている。

【体長—体重関係】

2023年の資源評価では、以下の式が用いられた。

$$W = (4.97 \times 10^{-6}) \times L^{3.39} \quad (\text{Chassot } et al. 2016)$$

但し、Wは総重量(kg)、Lは体長(尾叉長, cm)

最大体長(尾叉長)110 cm及び最大体重35.5 kg (IOTC 2017)。

【自然死亡率】

2023年の資源評価では、大西洋まぐろ類保存国際委員会(ICCAT)と同様0.8(全年齢)が使用された(Fu 2023)。

【インド洋ダイポール現象がカツオ漁況に与える影響】

インド洋でのカツオ漁況には、インド洋ダイポール現象が大きな影響を与えることがわかっている(Marsac and Nishida 2007)。本現象とは、インド洋熱帯域で南東貿易風が強まると、東部で海水温が低くなり西部で海水温が高くなる大気海洋現象で、Saji *et al.* (1999)が本現象を発見し、「インド洋ダイポールモード現象(ダイポール現象)」と命名した。東インド洋が冷たく、西インド洋が暖かくなるときは「正のダイポール現象」、その逆に東が暖かく西が冷たくなるときは「負のダイポール現象」と呼ばれる。正のダイポール現象が発生すると、東インド洋では湧昇流が強まり海水温が下がるため、カツオは中西部の暖かい海域へ移動する。その結果、東部でのまき網漁の漁況は悪化し、西部では逆に漁況が良くなる。負のダイポール現象のときは、これとは反対の傾向が見られる。ダイポール現象の漁業への影響は、操業水深

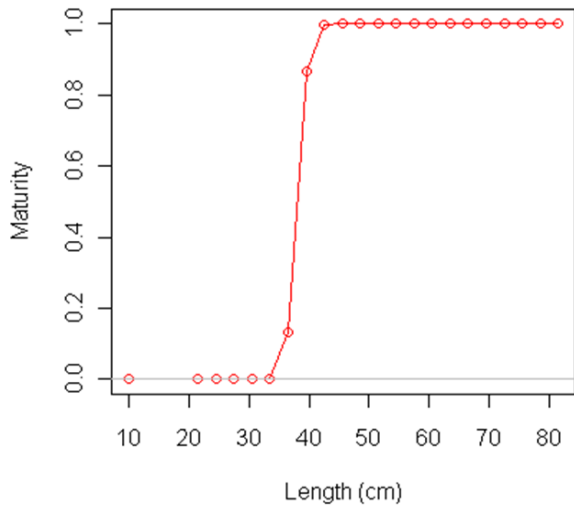


図7. 2023年の資源評価 (SS3) で使用したカツオの体長別成熟割合 (Grande *et al.* 2010)

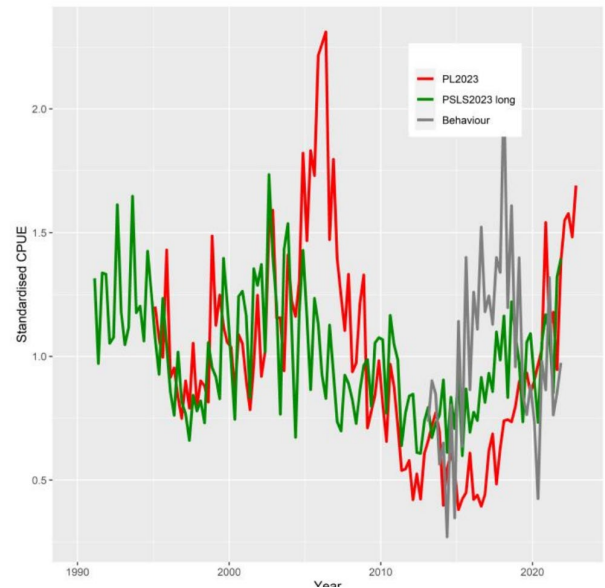


図9. 2023年の資源評価 (SS3) で使用したモルディブ竿釣り (PL) とEUまき網付き物操業 (PSLS) とカツオ標準化CPUEとFAD 蝸集や音響データを元に作成した指標 (behavior) (Fu 2023)。

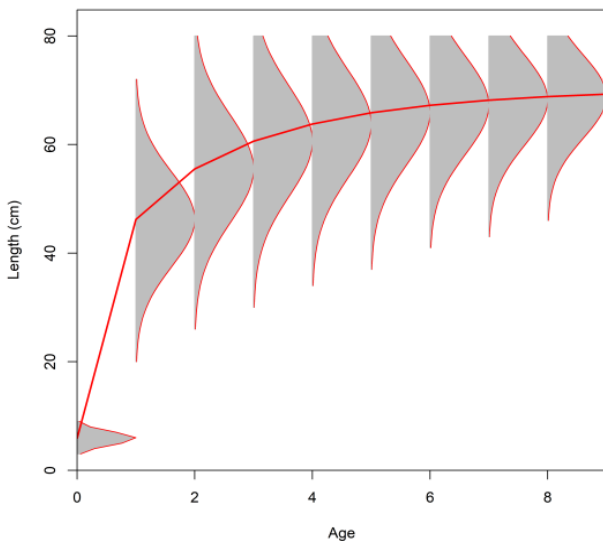


図8. 2023年の資源評価 (SS3) で使用したカツオの成長曲線 (Eveson *et al.* 2012)

を柔軟に調整できるはえ縄漁業 (主にキハダ・メバチ対象) よりも、カツオ対象とした表層漁業のまき網や竿釣りで顕著である。

資源状態

カツオの資源評価は、主たる漁業であるまき網の単位努力量当たりの漁獲量 (CPUE) を推定することが困難なため、長年実施されなかった。困難な理由として、(a) 漁獲努力量の把握が難しいこと、(b) 漁獲がダイポール現象・エルニーニョ現象に大きく左右されること、及び (c) まき網操業のカツオ漁況がキハダの漁況にも左右されること、の3点があげられている。しかし、2011年の第13回熱帯まぐろ作業部会で、まき網の代わりに竿釣りの標準化CPUEを資源量指標とした資源評価が初めて実施された。その後、まき網のCPUE標準化が開発され、竿釣りとともに資源評価に利用されるようになった。

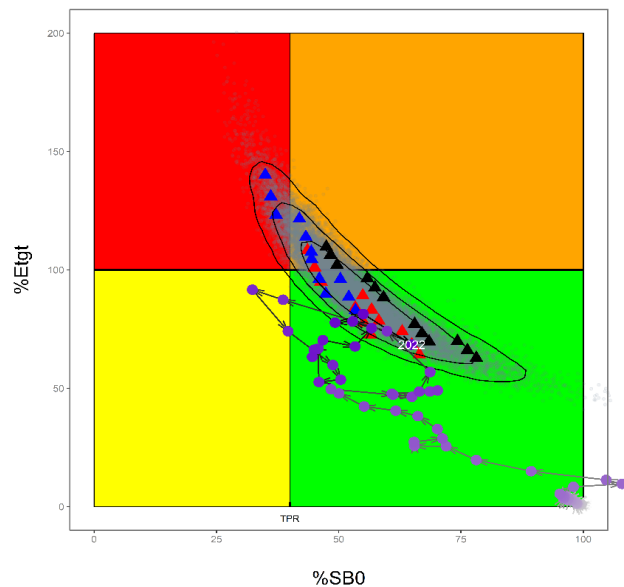


図10. 2023年に行われたSS3による資源評価結果 (Kobeプロット: stock trajectory) (IOTC 2023) 三角のシンボルは36シナリオの2022年の位置 (黒色が竿釣りのCPUEベース、赤色がまき網付き物操業のCPUEベース、青色がまき網付き物操業のCPUEとbehaviorの指標ベース)。

灰色部分は36シナリオの不確実性の範囲、等値線は内側から50%、80%、90%信頼区間を示す。なお、中央の縦線は40% B0を示し、中央の横線は目標漁獲死亡率の100%を示す。また、紫色の矢印線はモデルにおける過去の資源推移の時系列を表す。

最新の資源評価は2023年10~11月の第25回熱帯まぐろ作業部会で統合モデル (Stock Synthesis 3: SS3) を使用した実施された (Fu 2023)。資源量指数として、モルディブの竿釣り及びEUまき網 (FADによる流れもの操業) の標準化CPUEに加えて、FAD 蝸集動態や音響データを元に作成し

た指標が用いられた (Fu 2023) (図 9)。体長別成熟割合は、Grande *et al.* (2010) の知見を用いた (図 7)。自然死亡率は 0.8 で固定、成長式はリチャード成長曲線 (Eveson *et al.* 2012) を使用した (図 8)。資源評価は 36 種類のシナリオ (資源量指数の 3 種、スティーブネス 3 種、成長 2 種及び漁獲効率向上有無の 2 種) を設定して行った。

資源評価の最終結果は全シナリオの推定結果のメディアン (中央値) とした。その結果、2022 年の漁獲死亡係数は目標管理基準値である MSY 水準を下回り ($F_{2022}/F_{MSY}=0.49$)、また産卵親魚量も MSY 水準を上回った ($SB_{2022}/SB_{MSY}=2.30$)。このことから、現在の資源状況は Kobe プロットのグリーンゾーンに位置し、過剰漁獲でも過剰漁獲の対象にもなっていないと評価された (図 10)。

管理方策

2016 年の第 20 回年次会合で、インド洋カツオ資源に対して、HCR (漁獲管理ルール) による管理期間 3 年間の漁獲量制限を決定する管理方策が採択された (決議 (Resolution) 16/02、その後 21/03 に改定)。第 23 回科学委員会 (2020 年) は、HCR を適用し 2021~2023 年の漁獲量制限を 51 万トンと勧告した (IOTC 2020)。しかし、2019~2020 年の漁獲量は各々約 58 万・約 56 万トンで当時の漁獲量制限 47 万トンを上回り、また 2021 年以降の漁獲量制限 51 万トンも超過した。そのため、翌年の第 25 回年次会合 (2021 年) でモルディブから「2022 年に総漁獲量が HCR による漁獲量上限を超えないようにする仕組みを構築する提案」が提出されて採択された (決議 21/03)。2023 年の第 26 回科学委員会において決議 21/03 に基づく HCR から、2024~2026 年の漁獲量制限は約 63 万トンと勧告された。しかし、2023 年まで各年の漁獲量は HCR による漁獲量制限を上回ったことから、2024 年の第 28 回年次会合で 2027 年以降の漁獲量管理のための管理方式 (MP) が採択され、さらに 2025 年の第 29 回年次会合では締約国及び協力的非締約国の漁獲量の内訳と制約に関する決議 25/03 が採択された (IOTC 2025b)。同年 12 月の第 28 回科学委員会では、2024 年の漁獲量が同年の漁獲量制限を下回っていること、また 2024 年の資源量指数が MSE (管理戦略評価) の想定範囲内にあることから、MP 運用に対する例外的状況はないことが確認され、科学委員会は MP により算出された 2027~2029 年の TAC (総漁獲可能量) 約 57 万トンを委員会に勧告した (IOTC-SC28 2025)。

決議 25/03 の制約内容：

- MP の計算結果によって TAC の数量が変化した場合、各国の漁獲上限は比例して調整される
- 漁獲上位 9 カ国 (カテゴリー A) は 2028 年までに漁獲量を削減 (最初の 1 年で 3 分の 1、次の年に 3 分の 2) する
- カテゴリー B (上記に含まれない締約国及び協力的非締約国) が 2 年連続で漁獲量 1 万トンを超えた場合、カテゴリー A に含める
- カテゴリー A の CPC で漁獲上限を超過した場合、超過分は翌々年に差し引き。2 年連続で超過した場合は超過分の 125% を差し引きする
- 漁獲上限に達しなかった場合、その分の 10% までを翌々年

にキャリアオーバーできる

- 科学委員会は第 28 回会合で MP を再評価する。

また、現在、カツオを漁獲するまき網船が使用する人工浮き魚礁 (Drifting FAD: DFAD) に関する管理規則 (決議 24/02) が採択されており、主な規制は下記の通りである。

- DFAD の電子登録システムを開発。2025 年 9 月にテスト、2026 年 1 月に開始。
- まき網漁船 1 隻が一度に使用できる DFAD の数は従来の 300 基から 2026 年 1 月以降は 250 基、2028 年 1 月以降は 225 基に削減。取得数の上限は従来の年間 500 基から 2026 年 1 月以降は年間 400 基に削減。なお、まき網漁船 2 隻以下の国・地域及び小規模島嶼開発途上沿岸国への緩和措置あり。
- IOTC 事務局への DFAD の日別位置情報報告 (日時、場所、ブイ ID、船とブイの IOTC 登録番号)。
- 沿岸国・地域の EEZ 内で DFAD の位置情報送信が停止した場合、当該沿岸国・地域に通知。絡まりのない素材を使用し、網地の使用は禁止。
- 段階的に生分解性素材を導入し、2030 年以降は生分解性素材のみ使用可能。
- 固有の ID と漁船登録番号でマーキングしたブイのみ使用可能。2026 年 1 月からは IOTC 事務局が割り当てる固有の識別番号も表示。
- 支援船の数は、従来のまき網船 10 隻以上に対して 3 隻から、2026 年以降はまき網船 12 隻以上に対して 3 隻、2029 年以降はまき網船 15 隻以上に対して 3 隻に制限。ただし、稼働する支援船が 1 隻の加盟国は除外。

また熱帯マグロ類を対象として、漁船の漁獲能力 (漁船隻数) を 30% 削減することを求める措置が勧告 25/14 として採択された。その他、魚種共通の管理措置 (決議) として、漁船数制限 (決議 03/01)、義務提出データ (決議 15/01: ログブックによる漁獲量・漁獲努力量報告、及び決議 15/02: 漁獲量報告)、オブザーバープログラム (決議 25/06) 等がある。

執筆者

水産資源研究所 水産資源研究センター
広域性資源部 まぐろ第 2 グループ
西本 誠・津田 裕一

参考文献

- Adam, M.S. 1999. Population dynamics and assessment of skipjack tuna (*Katsuwonus pelamis*) in the Maldives. Doctoral thesis of the University of London. 302 pp.
- Artetxe-Arrate, I., and 29 co-authors. 2020. Investigating early stages of skipjack tuna (*Katsuwonus pelamis*) in the Indian Ocean using otolith chemistry. IOTC-2020-WPTT22(AS)-05_Rev1. 11 pp.
- Chassot, E, Assan, C, Esparon, J., Tirant, A., Delgado d, Molina, A., Dewals, P., Augustin, E., and Bodin, N. 2016. Length-weight relationships for tropical tunas caught with purse seine in the Indian Ocean: Update and lessons learned. IOTC-2016-

- WPDCS12-INF05. 11 pp.
- Eveson, J.P., Million, J., Sardenne, F., and Le Croizier, G. 2012. Updated Growth estimates for Skipjack, Yellofin and Bigeye Tuna in the Indian Ocean using the most recent Tag-Recapture and Otolith data. IOTC-2011-WPTT-14-23 Rev_1. 55 pp.
- Fu, D. 2023. INDIAN OCEAN SKIPJACK TUNA STOCK ASSESSMENT 1950-2022 (STOCK SYNTHESIS). IOTC-2023-WPTT25-09. 50 pp.
- Grande, M., Murua, H., Zudaire, I., and Korta, M. 2010. Spawning activity and batch fecundity of skipjack, *Katsuwonus pelamis*, in the Western Indian Ocean. IOTC-2010-WPTT-47. 28 pp.
- IOTC. 2017. Skipjack tuna supporting information. 15 pp.
https://iotc.org/sites/default/files/documents/science/species_summaries/english/Bigeye_tuna_Supporting_information.pdf (2026年1月12日)
- IOTC. 2020. Report of the 23rd Session of the IOTC Scientific Committee, December, 2020. IOTC-2020-SC23-R[E]. 211 pp.
- IOTC. 2023. Executive summary: Skipjack tuna (2022). IOTC-2023-SC26-ES03 (Appendix 3). 4 pp.
https://iotc.org/sites/default/files/documents/2023/11/IOTC-2023-SC26-ES03_SKJ_E_0.pdf (2024年12月2日)
- IOTC. 2025b. Report of the 29th Session of the Indian Ocean Tuna Commission, April, 2025. IOTC-2025-SC29-R[E]. 52 pp.
<https://iotc.org/data/datasets/latest/NC/ALL> (2025年11月13日)
- IOTC-SC28. 2025. Report of the 28th Session of the IOTC Scientific Committee. China, 1 – 5 December 2025. IO TC-2025 –SC28-R[E]: 269 pp.
- Marsac, F., and Nishida, T. 2007. Compared responses of purse seine and longline tuna fisheries to climatic anomalies in the Indian Ocean, 1980-2005. 1st CLIOTOP Symposium, La Paz, Mexico, 3-7 December 2007.
- Matsumoto, W.M., Skillman, R.A., and Dizon, A.E. 1984. Synopsis of biological data on skipjack tuna, *Katsuwonus pelamis*. NOAA Tech. Rep. NMFS Circ., 451: 1-92.
- Rodriguez-Ezpeleta, N., and 26 co-authors. 2020. Co-occurrence of genetically isolated groups of skipjack tuna (*Katsuwonus pelamis*) within the Indian Ocean. IOTC-2020-WPTT22(AS)-07. 7 pp.
- Saji, N.H., Goswami, B.N., Vinayachandran, P.N., and Yamagata, T. 1999. A dipole mode in the tropical Indian Ocean. Nature, 401(6751): 360-363.
- Stéquert, B., and Marsac, F. 1986. La pêche de surface des thonidés tropicaux dans l'Océan Indien. FAO fisheries technical paper 282. FAO, Rome, Italy. xiv + 213 pp

データの出典

- IOTC. 2022. Nominal catches by fleet, year, gear, IOTC area and species. IOTC-2022-WPTT24(AS)-DATA03.
<https://iotc.org/WGFAD/03/Data/05-NC> (2023年1月6日)
- IOTC. 2025a. Nominal retained catch data for all species, including bycatch ones. IOTC-DATASETS-2025-10-22-NC-ALL_1950-2024.
<http://www.iotc.org/documents/nominal-catch-species-and-gear-vessel-flag-reporting-country> (2025年12月22日)

カツオ（インド洋）の資源の現況（要約表）

世界の漁獲量 (最近5年間)	56万～69万トン 最近(2024)年:62万トン 平均:63万トン(2020～2024年)
我が国の漁獲量 (最近5年間)	4～506トン 最近(2024)年:7トン 平均:105トン(2020～2024年)
資源評価の方法	統合モデルSS3による解析。
資源の状態 (資源評価結果)	SSB ₂₀₂₂ :114.3万トン SSB ₂₀₂₂ /SSB _{MSY} :2.30 F ₂₀₂₂ /F _{MSY} :0.49 2022年の資源状態は過剰漁獲ではなく乱獲状況でもない。
管理目標	初期資源量の40%(MSYレベル)
管理措置	<ul style="list-style-type: none"> ● 漁獲量制限:63万トン(2024～2026年) ● 決議21/03:HCR(2027年以降は決議24/07に基づくMP)による漁獲量制限の設定。 ● 決議21/01:まき網支援船数制限。 ● 決議24/02:DFAD規制(DFAD使用数制限、DFAD登録、位置情報報告、マーキング、生分解性素材の使用、支援船数制限他)。 ● 決議25/03:締約国及び協力的非締約国の漁獲量の設定・削減目標及び繰り越しルール等。 <p>共通の管理措置:漁船数制限(決議03/01、勧告25/14)、義務提出データ(決議15/01:ログブックによる漁獲量・漁獲努力量報告、及び決議15/02:漁獲量報告)、オブザーバープログラム(決議25/06)等。</p>
管理機関・関係機関	IOTC
最近の資源評価年	2023年
次回の資源評価年	2026年(予定)

* 2022年までのデータを使用した資源評価の結果に基づく。

付表1. インド洋カツオの漁法別漁獲量（トン、1950～2024年）
 IOTC データベース（IOTC 2025）に基づく。

年	まき網	竿釣り	流し網	その他	総計
1950	138	9,014	872	624	10,648
1951	798	9,457	1,205	1,154	12,614
1952	867	9,206	1,127	1,106	12,306
1953	880	9,953	1,280	1,035	13,149
1954	1,087	9,933	1,345	1,258	13,623
1955	1,087	9,892	1,351	1,559	13,888
1956	1,153	10,080	1,392	1,824	14,449
1957	1,101	11,090	2,523	1,467	16,181
1958	1,100	11,152	1,612	1,446	15,311
1959	1,101	11,213	1,641	1,478	15,433
1960	1,087	10,478	1,943	1,738	15,246
1961	1,166	9,910	1,981	1,959	15,015
1962	1,444	10,339	2,882	2,323	16,988
1963	1,520	11,261	3,979	2,601	19,360
1964	1,718	11,134	4,878	2,577	20,307
1965	1,591	17,066	5,127	2,558	26,343
1966	1,829	18,952	7,779	2,683	31,243
1967	1,859	21,181	7,905	2,752	33,696
1968	1,856	20,121	8,294	3,181	33,453
1969	1,924	22,584	8,229	3,167	35,904
1970	1,685	29,991	7,051	3,332	42,060
1971	1,634	29,997	5,630	3,107	40,369
1972	2,037	20,292	7,597	3,791	33,717
1973	2,357	28,137	7,612	4,479	42,584
1974	2,769	36,424	8,402	4,769	52,365
1975	4,052	20,062	8,541	5,656	38,311
1976	4,518	23,361	10,629	6,803	45,311
1977	5,477	18,858	10,261	6,835	41,431
1978	6,741	19,418	9,412	7,718	43,289
1979	6,102	23,070	10,443	7,795	47,410
1980	7,601	27,722	9,304	8,798	53,425
1981	8,899	26,279	11,379	9,872	56,429
1982	13,125	21,825	12,832	11,297	59,080
1983	19,505	25,655	9,982	11,425	66,568
1984	49,650	38,198	8,942	11,960	108,751
1985	69,232	48,220	10,193	12,458	140,103
1986	78,915	51,390	10,558	13,200	154,063
1987	95,391	49,968	13,469	14,487	173,315
1988	107,454	65,451	16,272	16,029	205,207
1989	143,566	65,705	20,854	18,107	248,232
1990	118,394	68,701	22,819	16,879	226,793
1991	135,985	67,163	24,869	18,275	246,292
1992	164,477	67,404	29,794	25,187	286,862
1993	182,116	68,964	35,513	25,982	312,576
1994	200,823	80,411	45,710	24,543	351,486
1995	201,460	83,553	35,962	25,492	346,468
1996	178,751	80,156	40,808	29,567	329,281
1997	178,212	75,366	56,307	32,700	342,585
1998	182,549	86,322	49,413	32,842	351,125
1999	231,449	100,759	70,804	33,689	436,701
2000	231,017	86,728	79,501	32,395	429,641
2001	215,018	94,886	80,108	31,974	421,986
2002	266,973	121,351	76,157	31,644	496,125
2003	238,914	115,549	105,075	32,901	492,439
2004	187,700	113,501	126,079	40,139	467,419
2005	249,446	141,095	135,669	39,531	565,740
2006	280,209	149,162	153,749	39,042	622,162
2007	187,359	108,936	137,446	43,133	476,874
2008	186,516	100,674	116,102	45,526	448,818
2009	205,741	77,420	119,546	44,763	447,469
2010	204,822	83,345	105,922	44,617	438,706
2011	190,981	70,041	84,695	53,087	398,804
2012	124,918	75,580	90,106	55,280	345,884
2013	182,446	102,009	98,747	64,859	448,062
2014	170,110	89,055	96,798	71,622	427,585
2015	159,999	89,885	84,836	56,565	391,285
2016	221,474	96,883	80,775	60,397	459,529
2017	275,725	114,338	95,301	55,691	541,056
2018	350,707	110,989	108,592	47,537	617,825
2019	323,734	99,937	89,336	62,260	575,267
2020	277,475	118,033	88,405	73,195	557,109
2021	326,189	126,810	112,943	63,994	629,935
2022	349,925	133,257	123,840	66,897	673,919
2023	350,354	136,158	108,232	95,017	689,761
2024	307,165	86,830	117,956	112,082	624,033

(注1) まき網は素群れ操業と流れもの操業（流木、FAD等）の2種、その他には、途上国小規模漁業のひき縄、手釣り、敷網等がある。

(注2) 西インド洋の現EU加盟国の大型船によるまき網漁業は1984年から本格的に始まった。

付表2. インド洋カツオの海域別漁獲量（1950～2024年）（トン）
 IOTC データベース（IOTC 2025）に基づく。F51：西インド洋（FAO 海域 51）及び F57：東インド洋（FAO 海域 57）。

年	F51（西部）	F57（東部）	総計
1950	8,981	1,666	10,648
1951	8,979	3,635	12,614
1952	8,976	3,330	12,306
1953	10,231	2,918	13,149
1954	10,329	3,294	13,623
1955	10,693	3,195	13,888
1956	10,777	3,672	14,449
1957	12,583	3,598	16,181
1958	11,629	3,681	15,311
1959	11,646	3,787	15,433
1960	10,991	4,255	15,246
1961	10,135	4,880	15,015
1962	10,276	6,713	16,988
1963	11,295	8,065	19,360
1964	12,360	7,948	20,307
1965	18,442	7,902	26,343
1966	22,580	8,663	31,243
1967	24,457	9,239	33,696
1968	23,484	9,968	33,453
1969	25,053	10,851	35,904
1970	33,157	8,902	42,060
1971	33,095	7,273	40,369
1972	23,007	10,710	33,717
1973	29,849	12,735	42,584
1974	39,720	12,645	52,365
1975	24,169	14,142	38,311
1976	25,805	19,506	45,311
1977	20,765	20,666	41,431
1978	19,618	23,671	43,289
1979	25,854	21,556	47,410
1980	28,996	24,429	53,425
1981	29,015	27,413	56,429
1982	27,147	31,932	59,080
1983	36,535	30,034	66,568
1984	80,872	27,878	108,751
1985	110,557	29,546	140,103
1986	123,500	30,563	154,063
1987	139,974	33,341	173,315
1988	167,971	37,236	205,207
1989	206,037	42,194	248,232
1990	186,774	40,019	226,793
1991	199,974	46,318	246,292
1992	231,259	55,602	286,862
1993	243,094	69,481	312,576
1994	261,654	89,832	351,486
1995	255,072	91,396	346,468
1996	227,715	101,566	329,281
1997	233,135	109,451	342,585
1998	228,872	122,253	351,125
1999	308,917	127,784	436,701
2000	305,329	124,312	429,641
2001	305,859	116,127	421,986
2002	387,865	108,261	496,125
2003	368,138	124,301	492,439
2004	333,541	133,878	467,419
2005	437,755	127,985	565,740
2006	501,926	120,236	622,162
2007	325,894	150,980	476,874
2008	294,881	153,937	448,818
2009	282,878	164,591	447,469
2010	266,189	172,517	438,706
2011	224,486	174,318	398,804
2012	185,457	160,427	345,884
2013	262,274	185,788	448,062
2014	274,914	152,671	427,585
2015	269,058	122,227	391,285
2016	352,827	106,702	459,529
2017	390,283	150,774	541,056
2018	470,486	147,339	617,825
2019	410,652	164,615	575,267
2020	386,038	171,071	557,109
2021	468,495	161,440	629,935
2022	479,775	194,144	673,919
2023	464,445	225,315	689,761
2024	410,458	213,575	624,033

付表3. インド洋カツオの国別漁獲量（トン、1950～2024年）
IOTC データベース（IOTC 2025）に基づく。

年	モルディブ	スペイン	インドネシア	スリランカ	フランス	イラン	セーシェル	インド	NEIPS	日本	その他	総計
1950	8,000	****	270	1,380	****	****	****	393	****	****	605	10,648
1951	8,000	****	1,566	2,064	****	****	****	384	****	****	611	12,614
1952	8,000	****	1,691	1,605	****	****	****	383	****	19	609	12,306
1953	9,000	****	1,716	1,151	****	****	****	382	****	34	865	13,149
1954	9,000	****	2,119	1,077	****	****	****	384	****	149	893	13,623
1955	9,000	****	2,119	1,000	****	****	****	387	****	447	935	13,888
1956	9,000	****	2,248	1,323	****	****	****	390	****	596	893	14,449
1957	10,000	****	2,147	1,350	****	****	****	391	****	267	2,025	16,181
1958	10,000	****	2,145	1,465	****	****	****	389	****	219	1,094	15,311
1959	10,000	****	2,147	1,581	****	****	****	381	****	219	1,105	15,433
1960	9,000	****	2,119	2,054	****	****	****	386	****	372	1,315	15,246
1961	8,000	****	2,273	2,527	****	****	****	661	****	347	1,207	15,015
1962	8,000	****	2,815	3,805	****	****	****	123	****	439	1,807	16,988
1963	8,000	****	2,869	5,085	****	****	****	475	****	247	2,684	19,360
1964	8,000	****	2,922	4,920	****	****	****	410	****	273	3,782	20,307
1965	14,100	****	3,081	4,755	****	****	****	267	****	316	3,824	26,343
1966	16,900	****	3,565	5,039	****	****	****	191	****	511	5,037	31,243
1967	18,900	****	3,623	5,543	****	****	****	277	****	396	4,957	33,696
1968	17,500	****	3,619	6,278	****	****	****	422	****	602	5,032	33,453
1969	19,600	****	3,752	7,015	****	****	****	591	****	316	4,631	35,904
1970	28,234	****	3,286	5,512	****	****	0	515	****	140	4,373	42,060
1971	28,489	****	3,185	4,010	****	****	0	697	****	134	3,853	40,369
1972	17,819	****	3,971	6,625	****	****	0	496	****	191	4,616	33,717
1973	19,999	****	4,595	8,050	****	****	100	928	****	26	8,887	42,584
1974	22,949	****	5,399	7,062	****	****	50	1,147	****	29	15,729	52,365
1975	15,192	****	7,898	5,597	****	****	10	1,662	****	23	7,929	38,311
1976	19,063	****	8,808	10,208	****	****	10	1,204	****	13	6,005	45,311
1977	13,970	****	10,420	9,836	****	****	20	1,095	****	136	5,954	41,431
1978	13,433	****	11,351	11,022	****	****	10	1,773	****	928	4,771	43,289
1979	17,587	****	10,712	9,986	****	****	10	2,396	****	567	6,152	47,410
1980	22,649	****	12,067	11,778	****	****	****	1,557	****	427	4,947	53,425
1981	20,060	179	13,501	13,651	158	****	****	1,895	****	63	6,921	56,429
1982	15,460	14	17,888	13,097	792	****	****	2,532	****	457	8,839	59,080
1983	19,477	****	17,304	12,179	8,153	****	****	2,946	382	594	5,534	66,568
1984	32,668	6,393	18,004	9,434	21,979	****	****	3,710	8,229	697	7,637	108,751
1985	42,452	18,640	18,724	10,313	29,183	****	****	3,429	8,375	323	8,663	140,103
1986	45,473	19,098	18,774	10,862	38,789	****	****	4,276	6,442	566	9,783	154,063
1987	42,909	27,875	19,818	11,519	41,620	****	****	5,761	4,777	885	18,151	173,315
1988	58,546	39,702	24,604	11,979	38,094	****	****	5,071	7,021	2,254	17,935	205,207
1989	58,145	63,916	27,746	13,441	45,750	347	****	6,022	7,941	3,450	21,474	248,232
1990	61,426	47,851	22,411	16,342	27,873	808	****	5,799	10,952	10,920	22,410	226,793
1991	58,898	41,790	26,238	18,747	39,388	1,148	1,836	6,317	10,805	15,878	25,248	246,292
1992	58,577	46,694	26,260	22,462	45,048	4,291	643	7,302	10,827	31,473	33,285	286,862
1993	58,740	51,272	37,178	26,333	48,192	4,353	****	7,701	17,386	31,309	30,111	312,576
1994	69,410	61,608	42,344	32,433	58,430	7,400	****	7,685	24,454	20,097	27,625	351,486
1995	70,372	69,587	44,095	30,673	48,652	1,133	****	8,569	22,307	16,085	34,995	346,468
1996	66,502	66,276	57,352	35,969	40,056	3,241	****	8,617	18,394	7,030	25,844	329,281
1997	69,015	62,913	62,483	39,285	31,276	9,213	4,940	8,088	24,289	6,716	24,368	342,585
1998	78,410	58,646	59,656	38,573	30,340	6,671	10,704	10,841	31,194	5,753	20,337	351,125
1999	92,888	74,286	64,771	51,769	42,665	16,583	15,846	9,851	33,445	4,591	30,007	436,701
2000	79,683	79,362	60,705	56,486	39,935	20,091	11,567	9,279	40,831	2,334	29,368	429,641
2001	88,044	68,455	60,190	51,232	32,075	26,058	26,219	9,565	26,429	1,832	31,887	421,986
2002	115,321	91,327	55,617	49,038	54,204	29,859	29,891	9,422	31,949	1,938	27,560	496,125
2003	108,329	88,039	54,600	66,702	38,258	36,032	36,802	10,630	20,642	2,444	29,960	492,439
2004	109,748	64,393	62,191	69,030	37,323	53,646	29,960	11,697	4,742	1,462	23,226	467,419
2005	132,060	94,318	74,586	49,262	43,220	80,650	46,038	13,970	4,022	3,152	24,461	565,740
2006	138,458	118,866	65,896	48,846	47,640	102,668	47,515	18,375	4,481	1,994	27,423	622,162
2007	96,861	65,015	82,283	61,645	30,438	68,068	29,727	18,039	2,168	4,375	18,254	476,874
2008	87,072	65,100	81,521	65,717	29,521	43,900	30,036	22,060	3,379	3,223	17,290	448,818
2009	66,189	66,582	91,958	64,080	28,693	47,094	40,156	15,591	3,643	3,478	20,005	447,469
2010	73,721	75,141	98,704	68,704	20,863	22,285	43,830	17,805	****	1,119	16,534	438,706
2011	57,672	67,247	104,063	67,059	17,862	17,369	32,990	16,698	****	1,702	16,143	398,804
2012	53,392	42,892	93,153	60,723	10,352	27,071	19,641	23,865	****	1,452	13,343	345,884
2013	74,422	64,632	110,811	66,691	13,728	33,366	25,997	34,288	****	885	23,241	448,062
2014	68,498	66,597	89,583	61,719	19,944	39,729	32,104	32,136	****	522	16,752	427,585
2015	70,275	58,284	75,608	51,079	18,397	38,720	42,428	15,054	****	2,155	19,285	391,285
2016	69,589	75,264	69,996	46,482	30,876	39,158	60,756	37,214	****	2,366	27,828	459,529
2017	88,825	84,432	116,764	39,556	32,231	53,300	69,969	18,324	****	3,137	34,517	541,056
2018	100,099	132,354	89,240	40,020	49,567	49,964	81,451	36,388	****	2,087	36,656	617,825
2019	89,043	119,139	113,750	40,788	39,358	39,972	72,917	25,383	****	203	34,715	575,267
2020	103,871	85,193	125,586	37,686	30,570	44,516	75,486	19,385	****	506	34,311	557,109
2021	118,683	94,165	112,551	33,835	44,484	68,108	81,390	25,861	****	4	50,853	629,935
2022	126,386	88,992	146,759	30,537	38,454	78,598	78,250	27,639	****	4	58,301	673,919
2023	129,201	80,067	169,931	38,543	34,872	72,681	79,792	28,421	****	6	56,246	689,761
2024	80,293	66,324	144,325	48,713	37,046	69,510	77,883	30,943	****	7	68,990	624,033

****：操業なし